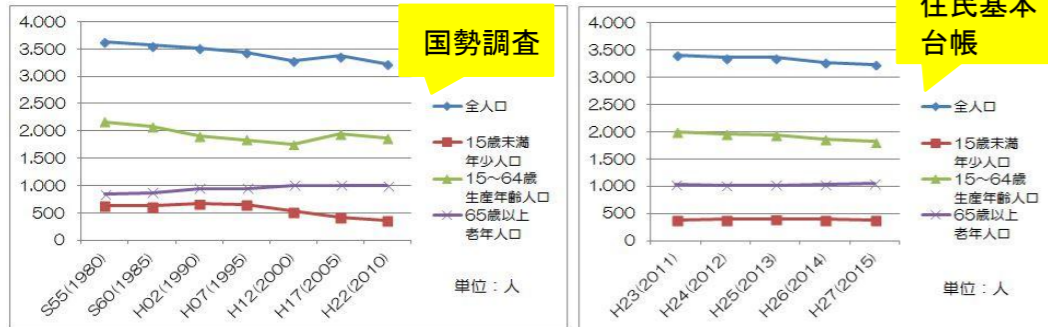


人口ビジョン

【現在、皆合わせて3,221人。人口の減少が続いています。】

昭和25(1950)年の9,208人をピークに急激な人口減少が進み、微増に転じた年もありましたが、平成22(2010)年の国勢調査では、3,221人と5年前より150人の減少です。スピードは緩やかににはなったものの減少傾向が続いています。

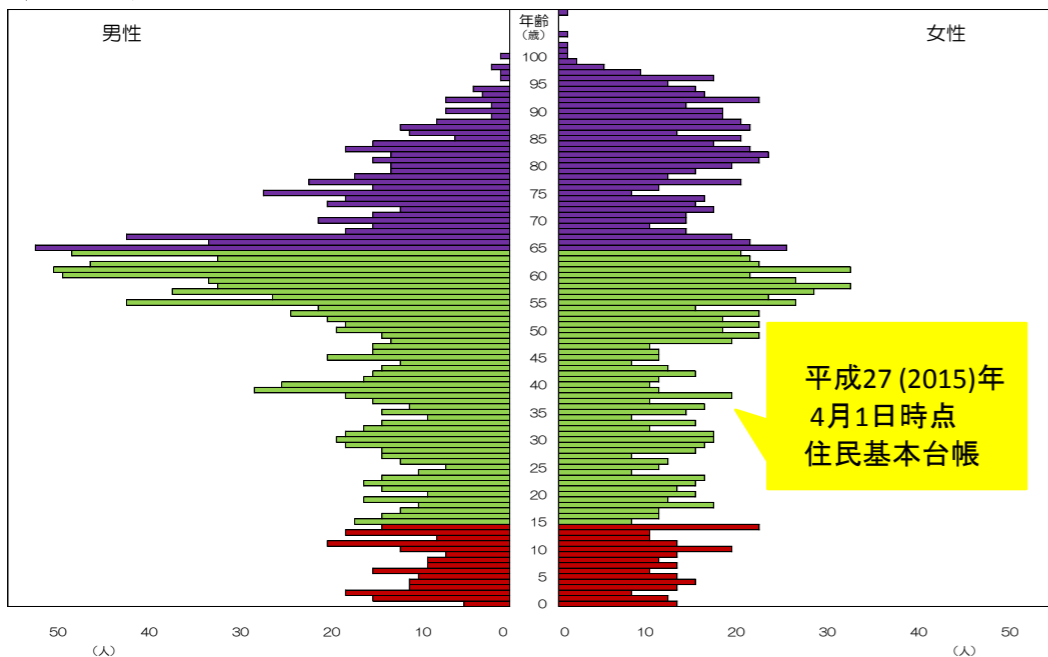
◇ 全人口と年齢3区分人口の推移



【現在、15歳未満は361人です。】

年少人口(15歳未満)の各年齢の平均人数は、男性12.1人、女性13.0人。同級生は、25人です。60歳から65歳が多く、概ね男性は3.7倍の45人以上、女性は1.5倍の20人以上で、今後、高齢化率は一層高くなっていくと推察されます。

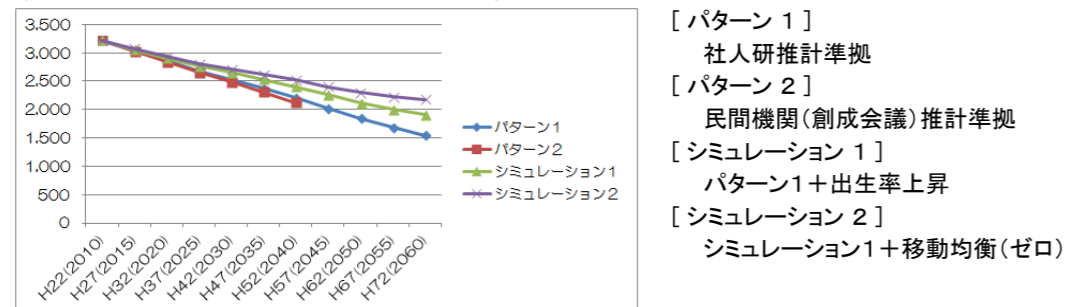
◇ 人口ピラミッド



【平成72(2060)年には、1,544人まで減少すると推計されています。】

全国の移動率が、今後一定程度縮小すると仮定したパターン1では、平成72(2060)年には、現在の半数以下(1,544人)になると推計しています。

◇ 国が提供するデータによる将来人口の推計



- [パターン1] 社人研推計準拠
- [パターン2] 民間機関(創成会議)推計準拠
- [シミュレーション1] パターン1+出生率上昇
- [シミュレーション2] シミュレーション1+移動均衡(ゼロ)

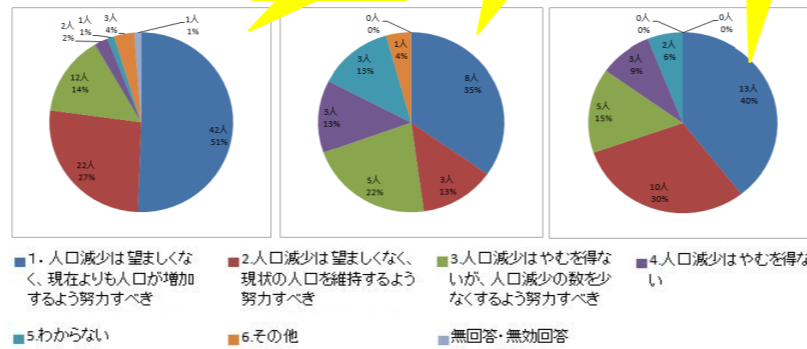
目指すべき大宜味村の将来

平成72(2060)年の目標人口 : 3,500人

【村民の希望は、減少・維持よりも増えて欲しい!】

[問] 大宜味村の人口は、3,200人ですが、これからも減少が続く、25年後の2040年には、2,200人程度になるとの予測があります。このことについて、どう思いますか?

◇ アンケート結果

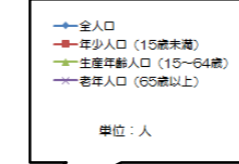


【こんな大宜味村を目指します】

- ・人口ピラミッドは、逆U字型を基本
- ・高齢者が、いつまでも元気で生き活きと暮らせる「長寿日本」の村
- ・26歳を目途に年齢当り男女合わせて40人程度
- ・高校進学時、高校卒業後の進学・就職時に、村外を選択することは、やぶさかではない
- ・小中学生は、1学年40人(同級生40人で学べる)
- ・出生数は、毎年40人程度

【目標達成のための要件】

- ・合計特殊出生率 現状の1.80より、平成32(2020)年には1.90、平成47(2035)年には2.00、平成57(2045)年には2.10
- ・純移動率
  - 0~4歳 → 10~14歳 +0.15
  - 10~14歳 → 15~19歳 △0.05
  - 15~19歳 → 20~24歳 △0.10
  - 20~24歳 → 25~29歳 ±0.00
  - 25~29歳 → 30~34歳 +0.10
  - 30~34歳 → 35~39歳 +0.13
  - 35~39歳 → 45~49歳 +0.10
  - 45~49歳 → 65~69歳 +0.05
  - 65~69歳 → 70歳以上 ±0.00



総合戦略

【基本的な考え方】

国の総合戦略の基本的な考え方や政策5原則等を踏まえ、本村における「人口減少と地域経済縮小の克服」、「まち・ひと・しごと創生と好循環の確立」を目指します。

【5か年戦略】

大宜味村人口ビジョンが示す人口の将来展望を踏まえ、平成27(2015)年度を初年度として、今後5か年に取り組み具体的な施策と、その目標や基本的方向です。

《戦略の期間》 平成27(2015)年度~平成31(2019)年度

基本目標1 産業振興による「活力あるむら」づくり

数値目標 : 失業率 17%(平成22(2010)年) ⇒ 11%(平成31(2019)年)

《基本的方向》

- (1)新規就業者支援
  - 担い手不足の解消
  - 新規起業家の支援
- (2)公共施設跡地等の利活用
  - 公共施設跡地等の利活用
- (3)大宜味ブランド商品の創出
  - ブランド商品の認知度アップ及び創出
- (4)芭蕉布産業の活性化
  - 芭蕉布産業の自立支援事業
- (5)企業誘致の推進
  - 企業誘致の推進

基本目標2 地域資源を活かした「魅力あるむら」づくり

数値目標 : 社会増減数 +85人(5年間累計)

《基本的方向》

- (1)観光資源を活かした受入体制の整備
  - ツーリズム推進事業
  - 世界自然遺産登録推進事業
  - 観光PR動画配信事業
  - 観光拠点施設の整備
- (2)移住・定住促進及び空き家有効活用
  - 移住・定住促進事業
- (3)若者の地域定着推進
  - 産学官連携による人材育成COC+推進事業

基本目標3 子育て世代が「いきいき輝くむら」づくり

数値目標 : 出生数 125人(5年間累計)

《基本的方向》

- (1)子ども・子育て支援
  - 子育て世帯支援事業
  - 幼保連携施設の開設
- (2)教育環境の充実
  - 魅力ある学習支援
  - 子ども居場所づくり支援事業
- 生涯おおぎみんちゅ施策

基本目標4 地域と地域を連携し「豊かで住みよいむら」づくり

数値目標 : 大宜味村が住みやすいと感じる割合

37.1%(平成27(2015)年) ⇒ 45%(平成31(2019)年)

※「住みよい」、「やや住みよい」、「やや住みにくい」、「住みにくい」の問に対する回答の割合

《基本的方向》

- (1)ゆいまーるネットワークづくり
  - 居場所づくり事業
  - 買い物支援事業
  - 地域支え合い事業
- (2)健康長寿のむらづくり
  - 健康でいきいき暮らせる環境の整備
  - シルバー就労支援
  - 各種保険事業の推進